

《 “オール野田市” で鈴木貫太郎記念館を再建 》

野田市鈴木貫太郎記念館 再建基金の創設へ

内閣総理大臣として日本を終戦に導いた鈴木貫太郎翁が、幼少期と最晩年を過ごした地でもある旧関宿町に開館した鈴木貫太郎記念館は、令和元年10月の台風19号の被害を受け、屋根からの雨漏りによりロビー及び展示室が浸水したため、現在臨時休館としている。

市では、この記念館の再建に向け、野田市鈴木貫太郎記念館再建基金を創設した。

記念館は、昭和37年に「財団法人鈴木貫太郎記念会」によって建設され、そのメンバーには、地元のほかに千葉県知事を筆頭として、野田市長や関宿町長などが名を連ねるほか、開館には、名誉総裁に就任した吉田茂元首相や、佐藤栄作元首相、経団連関係者らの尽力もあった。

その後記念館は、昭和41年8月に旧関宿町に移管されたが、建設から既に59年が経過、施設全体が老朽化していることから、全面的な改修を行うため耐震診断を行ったところ、コンクリート強度が著しく低いことが判明し、補強は困難との結果となった。このような中、鈴木貫太郎翁にゆかりの深い、地元からの強い要望もあったことから、戦後80年に当たる令和7年の開館を目標に、新たな記念館を再建することとした。

●記念館の再建にあたり、基金を創設

再建にあたり、建設資金の確保の中心となるのは、多くの方々からの寄附と考えており、貫太郎翁ゆかりの財界人や政治家などを含め、できるだけ多くの方々に再建の意義にご賛同いただき、全国から寄附を募るもの。

●鈴木貫太郎翁（1868年1月18日－1948年4月17日）について

第42代内閣総理大臣（昭和20年4月7日～昭和20年8月17日）。関宿藩飛地領の代官鈴木由哲の長男として和泉国（現大阪府堺市）で生まれ、幼少期を関宿（現千葉県野田市）で過ごす。

海軍軍人として日清日露の両戦役に従軍し、海軍大将まで昇進すると、連合艦隊司令長官や軍令部長などを歴任したのち侍従長に就任する。侍従長時代には二・二六事件に遭遇し、瀕死の重傷を負うも奇跡的に一命を取り留めた。枢密院議長を経て、昭和20年4月7日内閣総理大臣に就任し、日本を終戦に導いた。

戦後は、郷里の関宿に戻るが、吉田茂の要請で再び枢密院議長に就任し、憲法の改正に携わる。議長辞職後は関宿の主要な産業となる酪農の普及に努め、昭和23年4月17日に没した。最後の言葉は「永遠の平和、永遠の平和」と伝わる。

なお、タカ夫人は、昭和天皇の幼少期に養育係を勤めた人物である。

問合せ＝企画調整課・（直通）04-7123-1065

（代表）04-7125-1111（内線2362）

野 田 市